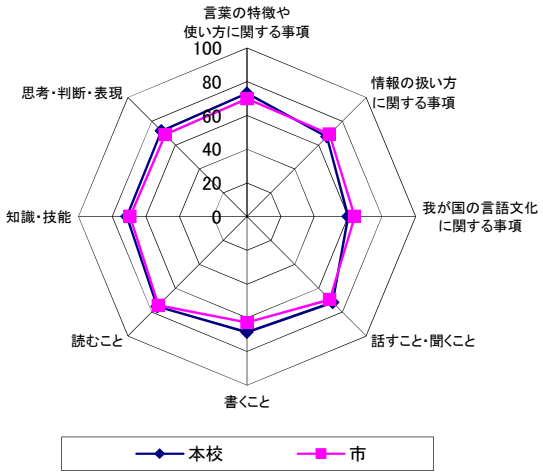
宇都宮市立姿川第二小学校 第６学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	73.2	69.9	72.3
	情報の扱い方に関する事項	67.0	69.2	73.0
	我が国の言語文化に関する事項	60.0	63.8	66.0
	話すこと・聞くこと	71.9	69.5	71.5
	書くこと	68.6	62.8	67.1
	読むこと	75.4	74.4	73.7
観点別	知識・技能	71.4	69.4	71.9
	思考・判断・表現	71.9	68.8	70.6

※参考値は，他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

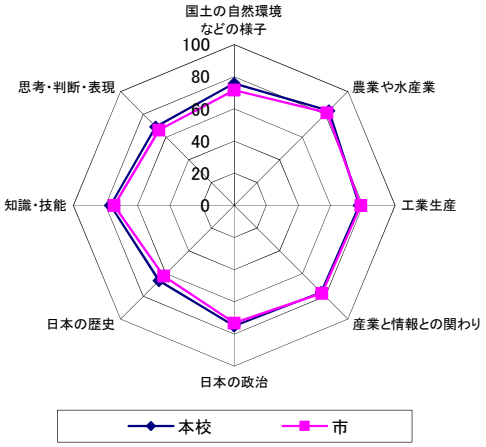
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	正答率は，市の正答率より高い。 ○敬語について理解し，正しく使えている。 ●漢字の読みに比べて，漢字の書きは正答率が低い。	・普段から漢字を書く活動を取り入れ，漢字を書くことに慣れさせる。 ・尊敬語と謙譲語を使うような場面をや依頼の手紙を書く活動など，実際に体験させたり書いたりする活動を，昨年に引き続き取り入れる。
情報の扱い方に関する事項	正答率は，市の正答率とほぼ同じ。 ○昨年度と比べると，情報を読み取る力が付いてきた。 ●複数の情報から必要な情報を読み取って，整理する力が十分身に付いていない。	・新聞などの資料を使って，必要な情報を読み取る活動を積極的に取り入れる。 ・条件の付いた文章を書くために，目的に応じた文章を簡単にまとめて書く活動を取り入れる。
我が国の言語文化に関する事項	正答率は，市の正答率より低い。 ●和語と漢語の定義が十分身に付いていない。	・和語と漢語の定義を押さえながら，興味や関心を持たせ定着を図る。
話すこと・聞くこと	正答率は，市の平均正答率より高い。 ○自分が聞こうとする意図に応じて，話の内容を捉えることができている。 ●意図に応じて質問を工夫することに関しては，市の正答率とほぼ変わらないが，話し方の工夫を考えることに課題が見られる。	・日常的に話す機会を設け，自分の考えや気持ちを発表できるようにするとともに，良い発表を取り上げるなどして，良さを共有し生かせるようにする。また，話合い活動において，自分の考えを話す活動だけでなく，友達の発表の要点を意識して聞けるように指導していく。 ・教科や総合的な学習の時間でのインタビュー活動など，目的に合わせた質問ができるような場を設定し，定着を図る。
書くこと	正答率は，市の平均正答率より高い。 ○分かりやすく伝えるための工夫に気付く問題や行数，段落構成などの指示に応じて，自分の立場を明確にした意見を書く問題では全国・市の回答率を上回っている。 ●複数の情報の関係やそれぞれで述べられていることを理解して，目的に応じた文章を簡単に書くことに課題がある。	・引き続き，授業や家庭学習の中でテーマや文章校正を設定した課題を設け，書く力の習熟を図る。 ・複数の情報の共通点や相違点を捉えたり，それぞれで述べられていることを関連させて考えたりする授業では，情報の読み取り方や関連付け方をより理解しやすいように工夫していく。目的に応じて情報を選び出し，必要なことを文章で書く力を高められるようにしていく。
読むこと	正答率は，市の正答率より高い。 ○物語の登場人物の心情について，描写を基に捉える問題では，全国・市の正答率より高い。 ●文章を読んでまとめた意見や感想を共有し，自分の考えを広げる問題では，全国・市の正答率を下回っている。	・今年度の研究でもある学校図書館教育とともに，チャレンジ図書や家読などの取り組み，並行読書を取り入れた指導などの成果の表れと考えられる。今後も読書活動を多く取り入れていく。また，読み取った後の感想や意見等を文章で表す表現活動も行い，確実に読む力が伸びるような指導を今後も続けていく。

宇都宮市立姿川第二小学校 第６学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	75.9	71.6	67.5
	農業や水産業	83.2	81.5	82.1
	工業生産	77.8	78.7	70.8
	産業と情報との関わり	76.5	77.2	68.2
	日本の政治	75.0	73.1	77.9
	日本の歴史	66.1	62.0	65.8
観点別	知識・技能	77.0	74.6	74.5
	思考・判断・表現	69.0	66.2	65.2

※参考値は，他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

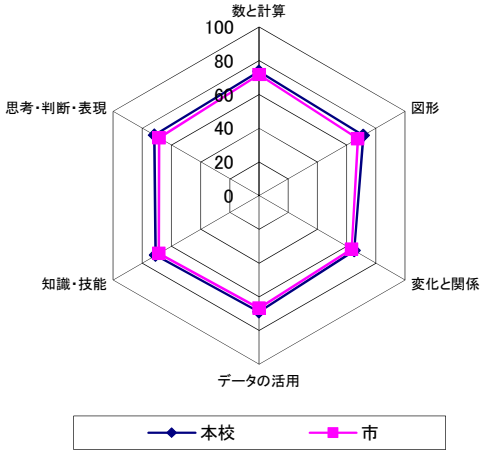
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	正答率は市の平均を4ポイント以上，上回っている。 ○日本周辺の海洋について答える問題では，正答率が市の平均を上回っており，周辺の海洋についてはおおむね理解できている。 ○津波に対する対策についての問題では正答率が90%を超えており，おおむね理解できている。 ○森林の働きに関する問題は，市の平均を上回っておりおおむね理解できている。 ●国旗を選ぶ問題では，市の平均は上回ったものの，誤答も多く，国旗の理解は不十分である。 ●日本の河川を答える問題では，他の2問に比べて正答率が特に低く，理解が不十分であった。	・地理的分野以外の授業でも地図や地図アプリを活用し，学習と関連させながら日本の国土について学べるようにする。 ・ワークシートや白地図を活用して，海洋，河川，山地等の基本的な知識の定着を図ることができるようにする。 ・国旗の意味などにも触れながら，国旗や外国の文化への関心を高めると共に，自主学習での学習も奨励していく。 ・地図と日本の自然や災害の写真とを関連付けて考えられるように工夫し，自然環境と自然災害を関連付けて特徴を理解できるようにする。
農業や水産業	正答率は市の平均を上回っている。 ○米の産地を問う問題の正答率は市の平均を上回っており，産地についてはおおむね理解できている。 ○食糧生産の工夫について問う問題の正答率は市の平均とほぼ同じである。 ●米作りの設備について問う問題では，市の平均を下回っており，米作りの設備やその役割の理解に課題がある。	・農業や水産業の学習の際には，手順や設備名だけでなく，その役割や工夫についても理解できる調べ方，まとめ方を指導するとともに，情報交換をする活動を設定して理解を深められるようにする。 ・日本の食糧生産への関心を高めるような資料を準備し，日本の食糧生産の特徴や今後の食糧生産のあり方について意欲的に考えることができるようにする。
工業生産	正答率は市の平均を下回っている。 ○自動車の生産手順に関わる問題は正答率が90%以上であり，おおむね理解している。 ●自動車の輸送に関する問題は，市の平均は上回っているものの他の問題に比べて正答率がとても低く，課題が見られる。 ●日本の輸出に関連するグラフの読み取りでは，正答率が市の平均を下回っており，課題が見られる。	・自動車の生産から輸送まで，一連の流れとして理解できるように，学んだ事象を関連付けてまとめていく。 ・社会的事象の見方・考え方を働かせながらグラフや資料を読み取り，そこから日本の工業や貿易の特徴を捉えることができるように，発問を工夫していく。また，複数のグラフや資料を関連付けて考える場面も設定していく。
産業と情報との関わり	正答率は，市の正答率より高い。 ○「メディアの特徴」や「自然災害から生活を守る設備」に関する問題の正答率は，90%以上と高い。 ●資料をもとに，コンビニエンスストアの発注システムについて捉え，判断する問題についての正答率は全国の平均を6.6ポイント上回っているものの，正答率が60%に到達していない。	・様々なメディアに実際に触れる機会を設け，それぞれの情報の種類や特色について調べたり話し合ったりする活動を取り入れる。 ・コンビニエンスストアの情報通信技術の活用の仕方について理解を深めさせるとともに，自分との関りを意識して考えさせるようにする。
日本の政治	○日本国憲法に関する設問では，正答率が，市の正答率より高い。 ●税金や日本の政治の仕組みに関する設問では，それぞれ市の平均を下回っており，課題が見られる。	・継続して時事問題や政治について学習に取り上げていくことで，社会に関する児童の興味関心を高めていくようにする。 ・税金の使われ方と政治の仕組みの関係について，調査活動を取り入れたり資料を活用したりして，日常生活と政治を関連させた学習が具体的に展開できるようにする。
日本の歴史	○鎌倉時代，室町時代の設問においては，市の平均を上回っており，よく理解できている。 ●縄文時代～平安時代の設問や安土桃山時代の豊臣秀吉の政策に関する設問においては，全国の平均は下回っており，課題が見られる。	・授業で各種資料を活用し，その見方や考えられることを表現する機会を多く設ける。 ・世の中の仕組みや政策などを各時代の様子や背景と照らし合わせながら，まとめの学習を行い，理解を深めていく。

宇都宮市立姿川第二小学校 第６学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	73.7	71.8	76.2
	図形	71.5	67.7	67.8
	変化と関係	65.2	63.4	62.7
	データの活用	69.0	66.7	61.5
観点別	知識・技能	70.9	68.6	70.7
	思考・判断・表現	71.7	68.5	66.0

※参考値は，他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

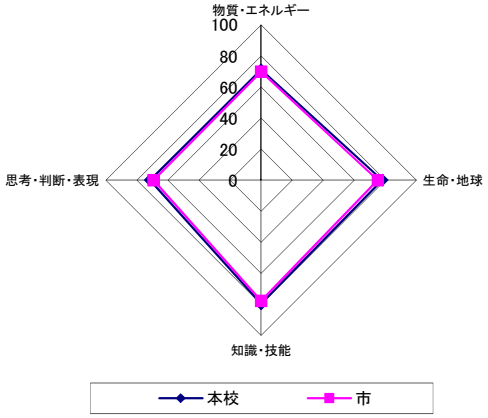
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	正答率は市の平均より1.9ポイント上回った 。 ○2つの文字を使って表された式について，一方の文字の値から他方の文字の値を求める問題では，市の正答率を11.3ポイント上回る71.6%と高い正答率だった。 ●小数第一位同士のかけ算の問題では，市の正答率を3.6ポイント下回る62.9%の正答率であった。さらに全国平均からは16.2ポイント下回る結果となった。	・少数同士のかけ算および分数同士の計算のしかたについては，数の意味や計算に関して成り立つ性質などに着目し，整数の計算に帰着するという見方，考え方において解決ができるよう，繰り返し問題を解く。また，求めた答えについて振り返りそれがどんな大きさの数であるのかを説明するなどの活動も大切にし，定着を図る。 ・児童の実態に応じて発展的な問題を解決する力も身に付けられるよう，習熟度別学習を生かして個に応じた指導の徹底を図る。
図形	正答率は市の平均より3.8ポイント上回った 。 ○線対称な図形について対称の軸が何本あるか求める設問では，市の正答率を16.9ポイント上回る69.8%の正答率だった。 ●正五角形の作図方法から円の中心の周りにできる角の大きさを求める問題では，市の正答率を3.2ポイント下回る64.7%と低い正答率だった。	・様々な図形の面積や体積を求める問題やその図形の性質を利用して答えを導きだす問題に繰り返し取り組むことで図形への理解を深めていく。 ・図形の領域に関しては，作図などに個人差が見られ，丁寧に指導していく必要があるので，習熟度別学習を生かして個に応じた指導の徹底を図る。
変化と関係	正答率は市の平均より1.8ポイント上回った。 ○単位量あたりの大きさを求める問題では，市の正答率よりも，3.6ポイント上回った。 ○その他の設問についても全ての設問について市の正答率を上回った。 ●割合を求める設問では，市の正答率を1.2ポイント上回っているものの，51.7%と他の設問に比べて正答率が低かった。	・単位量あたりの大きさや速さの単元の学習において，数量の関係が理解できるように，言葉や，図，式など複数の方法を用いて説明したり自分の考えをまとめたりする活動を取り入れることで，数量の関係についての理解が深まるように指導していく。 ・普段の日常生活の中でも割合について考えられるようにするとともに，継続して学習を繰り返し，定着を図っていく。
データの活用	正答率は市の平均より2.3ポイント上回った。 ○データを読み取る設問では，正答率が市の平均より4.9ポイント上回っている。 ●柱状グラフを読み取る設問では，他の設問で市の正答率を上回っている中で、平均正答率を1.1ポイント下回った。	・データの見方の単元について，柱状グラフや度数分布表などの理解を促すため，学級のデータなど身近なデータを取りあげながら学習を進めていく。また，様々なデータを取りあげて読み取ることで，それぞれの値についての見方が定着するように指導していく。 ・記述で解答する設問について課題が見られるので，自分の考えを記述してまとめる活動を取り入れていく。また，問題やデータを根拠として自分の考えをまとめていけるよう指導する。

宇都宮市立姿川第二小学校 第６学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	71.1	69.9	67.8
	生命・地球	77.9	75.1	73.7
観点別	知識・技能	79.6	77.8	78.4
	思考・判断・表現	71.6	69.4	66.2

※参考値は，他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	正答率は，市の正答率より高い。 ○「ふりこのきまり」では，実験の条件を変えて1往復する時間と振れ幅の変化や，ふりこの周期について理解しており，市の正答率を上回っている。 ○「物の燃え方」では，ろうそくが燃える前と後の気体の変化の割合や，石灰水の用途について理解しており，市の平均正答率を上回っている。 ●「物のとけ方」では，食塩の溶ける条件とミョウバンの溶ける条件を混同した誤答が目立った。正答率は44.4%であり，今後の課題がみられる。	・実験を行う際には，課題意識を持たせ，仮説を検証するための実験方法を児童に考えさせる機会をより多く取り入れる。 ・観察する観点を明確に示し，実験結果を整理する際には，実験の前後の変化の様子を絵や図を用いて視覚化を図るなど，指導方法を工夫する。 ・児童が観察，実験などの結果を整理する際に，異なる条件の実験も比較，検討する機会を増やすことで，科学的事象を正しく捉えられるようにする。
生命・地球	正答率は，市の正答率より高い。 ○「生物とかんきょう」では，動物の食べ物のもとをたどると植物に行きつくことについてよく理解できており，市の正答率を上回っている。 ○「月と太陽」での新月のときの月と太陽の位置関係についてはよく理解できており，市の正答率を上回っている。 ●「月と太陽」での観察カードの月のようすから観察した時刻を推測することについては理解が不十分で，市の正答率を下回っている。	・実験を行う際には，課題意識を持たせ，仮説を検証するための実験方法を児童に考えさせる機会をより多く取り入れる。 ・観察する観点を明確に示し，実験結果を整理する際には，実験の前後の変化の様子を絵や図を用いて視覚化を図るなど，指導方法を工夫する。 ・児童が観察，実験などの結果を整理する際に，異なる条件の実験も比較，検討する機会を増やすことで，科学的事象を正しく捉えられるようにする。

宇都宮市立姿川第二小学校
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で，重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
読解力・表現力の育成	様々な場面で根拠を示して相手に分かりやすく伝えるよう指導している。音読や読書活動を通して，語彙力・表現力を高める指導をしている。	物語や説明文の内容を読み取ることはできているが，意見や感想から多様な視点で比較して考える問題の正答率が低い。また，前年度より読書をする時間の減少が見られた。
主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	宇都宮モデルをもとに，子供が「やってみたい」「知りたい」と思わせる導入の工夫や振り返りを自分の言葉で書かせる時間の確保を行っている。	学校全体において，勉強が楽しい面白いといった肯定的回答が市よりも高い。また，授業が分かるという肯定的回答も高かった。その反面，各教科の「好き」という回答の減少傾向が見られた。
家庭学習の習慣化	発達段階に応じた家庭学習の内容・時間等を懇談会や便りなどで周知したり，年2回，家庭学習強化週間を実施したりしている。	家庭学習に取り組む時間は昨年と同等であった。年２回の家庭学習強化週間では，格差はあるものの内容の工夫された取り組みも見られ，家庭への啓発が学年に応じてなされたのではと考えられる。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・登場人物の気持ちや相互関係について，叙述をもとにとらえる問題については正答率が高い。音読や読書活動（チャレンジ読書・家読（うちどく））を積極的に進めてきた成果ととらえることもできる一方で，読書時間の減少や自分の言葉で表現することへの苦手意識も見られる。次年度も自分の考えを書く学習を多く取り入れ，自信をもって表現できる指導を充実させていく。
・「勉強が好きか」の問いには，全学年とも昨年度よりポイントが下がっているものの，市よりも肯定的回答のポイントが高い。また，「勉強が楽しい面白い」の問いについても市より肯定的回答のポイントが高い。次年度も宇都宮モデルをもとに，子供が「やってみたい」「知りたい」と思わせる導入の工夫を行いながら，多様な視点で物事を考えていける児童の育成に努める。